



米子市埋蔵文化財センターたより



第50号

2023年9月

伯耆町 こまちこしきのほら 小町越城野原第11遺跡 —新たに2基の横穴式石室を検出—

令和4年10月から調査を実施しています小町越城野原第11遺跡では、西から東へのびる丘陵で新たに横穴式石室を2基検出しました。

これまでに合計3基の横穴式石室を検出したこととなりますが、いずれも丘陵の南側斜面の中腹に位置し、等高線に直交するように主軸をとり、南に開口しています。

新たに検出された横穴式石室は3.5mの間隔をあけて並列しており、西側の横穴式石室2は全長2.4m、幅0.75mで、羨道と玄室の境界付近には板状の天井石が1枚架けられ、側壁の石は持ち送り状に積み上げられていると考えられます。東側の横穴式石室3は、全長2.8m、幅0.5mで、羨道と玄室の境界付近に板状の2枚の石を立てて羨道と玄室を区別し、さらに、羨道の入口には1枚の板状の石を立てて入口を閉塞していると考えられます。いずれの石室も未調査であるため、詳細な時期は不明ですが、石室が小型化していることから、横穴式石室1と同時期の7世紀頃の築造が想定されます。石室内の調査はこれから行う予定ですが、石室の構造がどのようになっているのか、横穴式石室1のように完全な形をした土器が出土するのか、これからの調査に期待しています。

越敷山麓には数多くの古墳が築かれ、古墳群を形成していますが、これらは古墳時代前期後半から造営が始まり、中期に最盛期を迎え、後期前半まで連綿と古墳が造営されています。後期後半には一旦途絶え、終末期に再び横穴式石室を持った古墳が単独でつくられています。後期前半以前の古墳は、丘陵上に造営されますが、終末期になると、丘陵の縁辺部に造営されるようになり、本遺跡でも丘陵の縁辺部の斜面の中腹に造営され、同様な立地形態が窺えます。(高橋)



横穴式石室2



横穴式石室3

発掘調査情報

－ 博労町遺跡 第3次調査 －

博労町遺跡第3次調査は、米子市博労町4丁目にある啓成小学校の敷地の北側に位置し、7月から発掘調査を行っています。

博労町遺跡はこれまでに2回の調査が行われており、弥生時代終末期～古墳時代の集落跡、奈良時代～平安時代の役所跡、鎌倉時代の畠跡が確認され、鎌倉時代の畠では、イネ、ムギ、ソバ、アズキなどが栽培されていることが明らかとなっています。

今回の調査では鎌倉時代の畠跡を検出しました。畠の区画は確認されませんでした。畠の畝がきれいに残っており、これまでの調査で確認された畠跡がさらに北側に広がっていることが明らかとなりました。また、遺構は確認できませんでしたが、古墳時代前期の土器が多量に出土しました。(下高)



鎌倉時代の畠跡

整理室たより

－小町越敷野原第11遺跡出土土器の接合－

整理室では、現在、発掘調査を実施しています小町越敷野原第11遺跡から出土した遺物の基礎整理として、接合作業を行っています。

接合作業を行っているのは谷部から出土した土器です。谷部からは縄文時代から古代の土器が多量に出土しており、小さな破片をジグソーパズルのように一つ一つ接合していますが、接合できる土器は少なく、接合できた時の喜びはひとしおです。接合をして形となった土器は実測をして、発掘調査報告書に掲載されます。(高橋)



出土した土器の破片



接合した土器

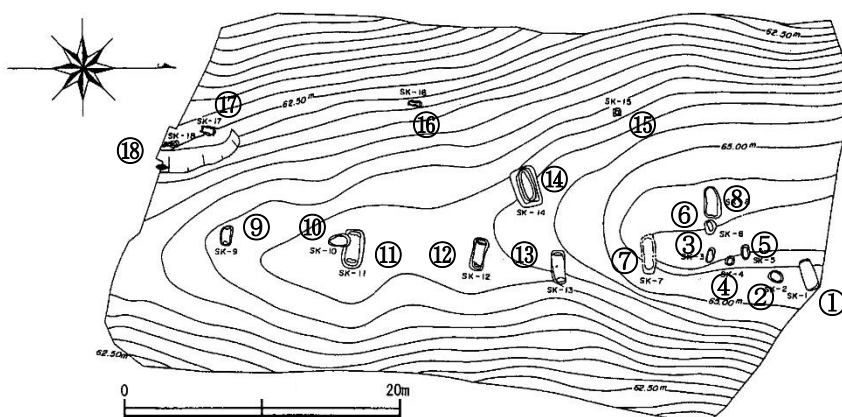
遺跡シリーズ 田住桶川遺跡 (たすみおけがわいせき)

田住桶川遺跡は、南部町田住に所在し、西側に小松谷川が流れる会見盆地を見下ろす越敷山塊の西側の丘陵上に位置します。

遺跡は、県営西伯地区広域営農団地農道整備事業に伴って平成8年度に財団法人鳥取県教育文化財団(現 公益財団法人鳥取県教育文化財団)によって発掘調査が行われました。

調査の結果、弥生時代後期前半の墓壇14基が検出されました。これらのうち、木棺墓は6基(SK-6・9・11~14)、土壇墓は8基が確認されています。各墓壇は北から南へのびる丘陵に直交するように、ほぼ東西方向に主軸を向けています。また、長さ2mを超える大型墓(SK-1・7・8・11~14)がお互いに適度な間隔をとって配置されていますが、長さ1~1.5mの小型墓(SK-2~6・10)は大型墓に付随するような配置となっています。いずれの墓壇からも人骨や副葬品は出土していませんが、遺跡からは在地の土器の他に吉備系の土器が出土しています。

鳥取県では弥生時代後期前半の墓は類例が少なく、本遺跡はその様相を窺い知る数少ない資料の一つであり、また、吉備系の土器の出土から外来的な要素を持った墓制の展開が窺われます。(高橋)



遺構分布図 ※ 丸数字は遺構番号を示す

コラム 発掘された遺物 —古墳時代中期の土器—

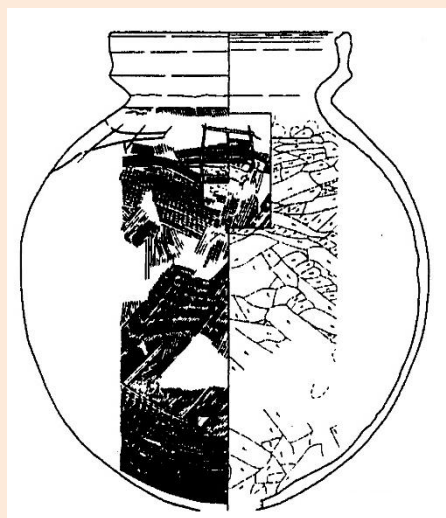
古墳時代中期は、およそ千六百年前から千五百年前と考えられています。

中期前葉は、壺・甕は器壁が厚くなり、口縁部の退化がさらに進みます。高坏は、坏部が皿状あるいは椀状となり、脚部が細くなります。

中期中葉は、甕の口縁部下端の突出がほとんどなくなり、この時期以降、外面肩部の刺突文は見られなくなります。高坏は、坏部が椀状のもののみとなり、脚部の短脚化が始まります。

中期後葉は、甕は形骸化した口縁部となり、前期からみられた畿内の布留系の土器は見られなくなります。

(高橋)



中期の土器 (新鳥取県史より)

センター・資料館日誌

- 7月 3日（月） 出雲市文化財課の幡中氏が縄文時代の遺物に付着した水銀朱の調査で来館。
- 7月 7日（金） 出雲弥生の森博物館の坂本学芸員が青木遺跡出土の広口壺の借用で来館。
- 7月 10日（月） 八雲立つ風土記の丘の齋藤学芸員が石州府古墳群出土の装飾太刀の調査で来館。
- 7月 21日（金） 八雲立つ風土記の丘の齋藤学芸員が石州府古墳群出土の装飾太刀の借用で来館。
- 7月 25日（火）～8月 7日（月）
市内小学校の学童保育（なかよし学級）に勾玉づくりの出前講座実施。
- 8月 2日（水） P A J A（学童保育）に弓矢体験の出前講座実施。
- 8月 2日（水） 米子西高校の教員2名が初任者研修で来館。
- 8月 10日（木） 島根県立古代出雲歴史博物館の中川学芸員が石州府古墳群出土遺物の調査で来館。
- 8月 17日（木） ペアーレキッズスタジアム（学童保育）に勾玉づくりの出前講座実施。
- 8月 18日（金） 鳥取大学の学生が人物埴輪と動物埴輪の調査で来館。
- 8月 28日（月） 福市考古資料館企画展1「米子城跡の最新成果と今後の史跡整備」閉幕。
- 9月 2日（土） 文化庁の地主調整官と京都大学大学院の小椋教授が上淀麿寺跡の壁画の調査で来館。
- 9月 9日（土） 第1回考古学講演会「米子平野の古墳について」を実施。
- 9月 12日（火） 鳥取県立博物館の小山学芸員が米子市内出土の勾玉の調査で来館。
- 9月 14日（木） 奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センターの大賀氏が玉類の調査で来館。
- 9月 21日（木） 鳥取県立博物館の小山学芸員が米子市内出土の勾玉の借用で来館。
- 9月 23日（土） よなぶんフェスティバルに勾玉づくりを出店。
- 9月 24日（日） 彼岸花の里づくりプロジェクト実行委員会主催の「上淀麿寺跡彼岸花ウィーク」に協力。
- 9月 24日（日） 米子市児童文化センターとの連携事業「米子城を知ろう！」で米子城跡のガイドを実施。

編集後記

今年の夏は例年にはない異常な高温で、「命に関わるような暑さ」といっても過言ではない暑さの中、調査職員は発掘調査現場に出掛けております。こまめに休憩を取りながら調査を行っていますが、この暑さで体はかなりバテています。夏が終わるのは少し寂しい気はしますが、早く涼しくならないかと待ちわびています。

発行日 令和5年9月29日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp